

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

秀吉はどのように各地の大名を 従えていったの？

(東京大学 2009年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次の文章を読み、豊臣秀吉がどのように各地の戦国大名を従えていったのか、説明しなさい。

(1) 1585年、秀吉は九州地方の大名である島津氏に次のような手紙を送った。「勅命に基づいて送る。九州でいまだに戦乱が続いているのはよくないことである。国や郡の境界の争いについては、双方の言い分を聞いた上で決定するので、まずは戦いをやめなさい。従わない場合には、ただちに成敗する」

(2) 1586年、島津氏は「関白殿から戦いをやめるように言われたが、境界を接する大名から攻撃を受けているため、戦いをやめることができない」と回答した。

(3) 1587年、島津氏は秀吉の攻撃を受け、降伏した。秀吉は島津氏に薩摩国・大隅国などを領地として与えた。

(4) 1592年に始まる朝鮮出兵では、島津氏に与えられた領地に応じて兵を出すよう、秀吉に命じられた。

戦国の世を治めて天下統一を成し遂げる豊臣秀吉ですが、その際にさまざまな制度や決まりを整えました。そのうちのひとつが、今回取り上げた「私闘の禁止」、いわゆる惣無事令と呼ばれるものです。惣無事令とは具体的にどのようなものだったのか、見ていきましょう。

領地争いの戦いの禁止

秀吉が天下統一をする前の戦国時代は、強い者が勝ち残れる実力行使の時代、戦国大名と呼



イラスト・瑞木匠

主従関係や 権威も利用

ばれる有力武士たちは戦うことで自らの領地を拡大していました。秀吉も、各地の有力武士を武力で従えることで、天下統一を進めました。

ただ、各地で大名が小競り合いを続けていたら、安定した世の中になりません。そこで秀吉は「領地の確定は全国統一して行うため、領地争いのための個別の戦いを禁止する。逆らう者は処罰する」という命令を出しました。問題文の(1)はまさにその内容を表しています。この惣無事令は天下統一のための重要な命令だっ

たのです。

武力以外の力の利用

(1)(2)を見ると、「勅命」「関白」という言葉が出てきます。勅命とは天皇の命令のこと、関白とは天皇の補佐役のことで、当時秀吉は関白の地位についていました。武力でねじ伏せるだけでなく、あくまでも天皇の命令を天皇の補佐役として伝えている、という形をとっていることがわかります。

また(3)(4)を読むと、大名に領地を与える代わりに戦いの際の協力を求めている様子わかります。これは鎌倉時代に将軍と御家人の間にあった関係(鎌倉時代の将軍は、家来である御家人に領地を与える代わりに戦いの際の協力を求めました)と同じです。武家社会に根づいている主従関係にならったのですね。

このように、秀吉は武力だけでなく、天皇という伝統的な権威や、鎌倉時代以来の武士の主従関係を利用して、天下統一を達成し、安定した世を築こうとしたのです。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

戦国時代は武力がものを言う時代でしたが、天下統一のためには武力以外の力も重要でした。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。